

洋書輸入協会会報

VOL. 14

NO. 11

(通巻163号) 昭和55年11月

理事会報告

9月26日(金)

- (一) 前回に引き続き委員会メンバーの検討を行い、アンケート未回答の9社を除き編成を決定した。
- (二) 前回に引き続きAAP(米国出版協会)とのディスカッションにつき討議をした。AAP側の質問事項については継続審議とし、ハーバー社の代表団への追加、及びブレンティス・ホール社の藤山氏のディスカッションへの参加を諒承する。なおディスカッションは、11月19日(水)午後3時より竹橋会館において行うこととなった。

(三) 通関委員会報告

第79回通関協議会幹事会が、9月24日(水)東京外郵出張所において開催された。今回より、関係各業界より交代で教養講話を行うこととなり、第一回目として洋書輸入協会より紀伊國屋書店の相良廣明氏が、「洋書輸入業務の実態」と題して約40分間にわたり講演を行った。

10月13日(月)

- (一) 9月分収支計算・予算対比表の検討、承認。
- (二) 委員会メンバーに未回答の9社につき、事務局より電話照会を行った結果、今回はこの9社を加えず前回

理事会編成の通りとし、新メンバーによる活動は10月より実施ということに決定した。

- (三) AAPとのディスカッションにつき継続審議。会議に必要なデータをAAP側に求めることとした。
- (四) 10月5日付日経紙掲載、「12月1日より施行される予定の外国為替・外国貿易管理法改正(昨年12月改正)に伴う外国為替管理令や、輸出・輸入貿易管理令などの7つの政令の改正案を固めた」との記事につき報告。
- (五) ダイレクトリー委員会より。

1981年度ダイレクトリー広告料値上げの報告及び広告勧誘の要請があった。

洋書交換委員会だより

第12回洋書まつり

10月18・19日の両日、恒例の第12回洋書まつりが神田の東京古書会館で開催されました。台風にたたられた昨年とは違ってかわって好天に恵まれ、初日から快調なペースでお客様が入りました。

今回19社が出品、総数3万点に及び売上げも4,800点を超え、333万円と洋書まつり始まって以来の売上げ記録をつくりました。従来は欧米の書籍ばかりが目につきましたが、今回A・A諸国の書籍も陳列され、内容も一段と

理事会報告……………1	Book Review No.71……………4	通関統計……………5
洋書交換委員会だより……………1	海外ニュース……………5	広告 洋販・
フランクフルト国際書籍展所感…2	来日外人名簿……………5	(日本洋書販売配給株式会社)…6
外国出版社紹介 No.74……………3	新入会員のお知らせ……………5	



充実しました。

来年はもっと充実した内容でお客様を迎えたいものです。今回参加された会員、来年もお願いします。また参加されなかった会員、来年は参加して下さいようお願いします。

みな様ありがとうございました。来年もよろしく。

フランクフルト国際書籍展所感

紀伊國屋書店 渡辺和彦

第32回フランクフルト国際書籍展は、10月8日より13日まで、6日間フランクフルトのメッセ・ゲレンデにて開催された。筆者の参加は今年でまだ三回目で、日本の出版・流通業界関係でも多い方ではないが、昨年より初めてブースを設営してみて改めて、この展示会の底知れぬ懐の深さを痛感した。商談とパーティ、情報収集、出版動向の見聞など、こと輸入・流通業者にとっては、まだまだ尽きぬ魅力のある展示会といえよう。

一般には、今年のフェアは、欧米出版人の参加、人員削減やら、展示ブースの縮小、トピックとなる世界的ベストセラーの枯渇、世界的不況とインフレ下での各社出版企画の抑制・消極化など取沙汰された。いわば、往年のフランクフルト偏重是正の動きが顕在化している。このフェアは、参加する業者・スタッフの専門職種と狙い所により、その成果うんぬんも評価の基準が分れるであろうから、全般的な印象批評は殆んど意味がない。ここでは、あらゆる業種に共通して、常に事前の予備交渉、ホームマーケットの顕在的、潜在的需要の分析と把握、創造的な洞察力と出版企画力のある者が、常に、次の一年間を有利にリードできるはずである。我々は、洋書輸入業者として参加したので、その観点に立って見聞、感

想をまとめてみたい。

まず昨年に続き、自社展示台を設営してみて感じたことであるが、ここでは、連日商談の約束時間が、30分刻みで行われるため、まずこのスケジュールに六日間もちこたえる体力が必要だ。商談の申込みは、事前になるべく取捨選択が重要ではあるが、平素のダイレクトメールやコレポンよりは、たとえ20分間でも相互に話し合えれば格段に意志の疎通と、今後の実のある取引の糸口がつかれる。近年、欧州の出版社より、日本の業者に対する商談の申込は急増しており、断りきれぬ熱心な申し出が多い。他方、約束を事前の連絡なく反故にすると、特に出版人は、クレームに感情を表出するので要注意。なるべくゆとりのある面談時間割の立案と、事前の調査、予備交渉が第一だ。正味20分（他の10分は、ブース間の往復歩行時間にかかるので、馬鹿にならない。）で、まず話の核心に入り具体的計画を提案し、合意し約束する決断力と権限が第二に要求されよう。第三に、ここでは、世界のあらゆる出版社が参加しているため、普段の取引関係の漫然たる表敬訪問をしていては、全日程をせいぜい主要二カ国位で終わってしまう。従って商談は、思いきって毎年対象を絞るのが成果を生む秘訣だが、体験ではどうしても西欧、特に英国・オランダ・ドイツ・フランスといったところが殆んど全体のスケジュールをうめてしまう。出来れば全体のバランスを考え、一般書籍の5号館、科学技術書の5A号館等の持場でも、「その他の国」といっては失礼だが、未だ日本にあまり紹介されていない国及び言語の出版物を前向きに検討する開発の余裕も必要であろう。又出来れば会期中少くも二回は、6号館の児童、芸術書、8号館のドイツ語出版社の大ホールにも顔を出し、見聞を広めることも必要ではないか。我々は大体カタログ・予告・広告等の情報だけで、學術書を日本に紹介しているわけだが、現物を必ず見ておくことは、業界人としての一つの見識を固めるばかりでなく、特別な販売企画立案の上でも大いに参考となろう。実行は難しいが、今後は是非試みたい。

第四に、とにかくここでは、一日平均10件以上の商談を行うわけであるから、その整理とフォローアップが重要で、これが生半可に終ると海外出版人の信用を失う。約束事項と返信は必ず果すことである。大量のカタログ、情報を預り、刻明にメモをとるのは相当なハードワークであるが、まずこれが最大の成果を生む「種」である。ポイントは、あらゆる商談についてその直後のうちにま

とめておくことだ。

合衆国・英国・オランダを始め近年西欧の出版社の日本市場攻勢はますます熱心である。各社相当にタフなスタッフを揃えて毎年日本に出張、輸入業者をくまなく訪問するような大手は別として、フランクフルトでは、中堅又は新興の、かなり質の高い学術出版社を見出し、新しく日本への紹介の労をとることも重要ではないか。

一方、西欧の大手の学術出版社といえども、日本の市場や、大学における予算、購入の諸慣例、条件などについては、意外に無知であり、日本への輸出高増大の要因も、学術水準の高さ、学術市場の大きさ、そして購入資金の潤沢さなど、安易に観測している気配はないか。皮相で甘い日本市場「戦略」が、ユーザー直販やら、日本上陸やら、前途の障壁を知らぬ一部欧米の出版・取次業者の思惑を喚起しているようだが、我々ももう少し輸入業界全体の相互の利益と、これまで育んできた市場をもう少し積極的に防禦できるよう、少しは協同歩調をとるべきであろう。フランクフルトは依然フェアである故、ネガティブな話題は禁物だが、しかし日本の事情通の、良識ある出版要人を増やしていくことは重要であり、又

ここでは腹藏なく話ができる。

さて今年は、昨年を161社も上まわる5,216社、92カ国が参加し形の上では史上最大規模の国際書籍展にはなった。広大な施設を使い、機能的には、西独ならではの極めて合理的、計画的な運営がなされてはいるが、しかしホテル代の高騰(ビジネスホテルで、160マルク以上)、会場内のレストランの混雑、帰りの交通ラッシュには誰もがへきえきしている。フランクフルト・ブック・フェアもかつては「出版界要人は、誰もがそこに集まるので、誰もが赴く。」といった世界の出版社の年間最大の商機と目されていたが、今年あたりは、ロンドン書籍展、そして米国書店総会に版權取引の場も少々移っているようだ。他方日本の大手出版社のある幹部は、「今迄と違って、今年あたりは、こちらで売りに出向かずとも、欧米より版權を買い求めにくるケースが急増している。」と鼻息が荒らい。各社、各業種・各人それなりの収穫、観測もあろうが、やはり当面の利害関係を忘れ、改めて広く出版物を手にとって眺め、新刊のみならず既刊も含め、出版社自体の伝統と個性を十分日本に紹介することあたりが我々にとって堅実な目標といえそうだ。

外国出版社の紹介 No.74

ABLEX Publishing Corporation. Norwood, New Jersey, U.S.A.

米国の大手出版社 Harcourt Brace の役員であり有力な学術出版社 Academic Press の設立者であり、自分の名前をそのまま社名としたバックナンバーの Walter J. Johnson, Inc. の社長でもある Walter J. Johnson 氏が数年前に発足させた純粋の学術出版社である。氏の考えが色濃く出ている出版社と言えよう。出版物の内容は、コミュニケーション、教育、言語学、社会学、心理学、生化学と分ける事は出来るが、全般的に言える事は、横断的に出版物全体をつらぬいて、社会・行動科学の考え方が存在しているという事であろう。つまり、ほとんどの本が、社会・行動科学という大カッコでくれる内容で、編集方針がうかがわれる所である。雑誌もすでに7点出ている。全出版点数は、まだ百点足らずのものであるが、高度な学術内容は日本でもすでにかなりの注目を集めている。出版の予告が

出るやたちまち数百冊の予約注文を日本で集めたタイトルも現にある。今後大きく伸びそうな出版社である。

さて Ablex という社名であるが、何か意味があるのだろうか。Walter Johnson 氏によると、意味は全くないそうである。かつて Johnson 氏が設立した Academic press は A から始まる社名なので、電話帳や出版社のリストなどで、たいてい最初の方に記載されて、甚だ具合がよい。そこで、それよりも前に書いてもらえる Alphabet の組合せで、しかも口調のよい発音の社名という事で考え出したのが Ablex という社名との事である。たしかにこれなら、電話帳も、出版社名簿も、Academic よりも前になる。

(SSD.S.N)

ふみくら——日本の文庫案内

朝日新聞学芸部編 1979.6.1 初版第1刷
出版ニュース社発行 ¥800

1977年5月2日から77回にわたって毎週朝日新聞読書欄（東京本社管内）に連載された「ふみくら」を一冊にまとめ、あわせて特殊コレクション171の一覧を収録したのが本書である。「ふみくら」連載中は次週にはどの図書館がとりあげられるかと楽しみにしていた読者も多い。

この本の特徴であり、長所であるのは、北海道（市立函館図書館）から沖縄（那覇市史編集室）までの1ヵ所1ヵ所を訪問した上で書かれていることである。それだからこそ、それぞれの図書館、コレクションにまつわる記事が読者に実感をもってうけとめられるのである。例えば、「皆川コレクション」という項目では、50年にわたって全く独力で新聞の号外を集めている皆川重男さんの哀歓がつたわってくる。「学生時代ならともかく、年をとってから、こんな紙くずみたいなものを集めて何になるのか、南京虫の巣になるだけではないかとやめようと思ったことは何度もある」という皆川さんが、日本さいしょの号外といわれている中外新聞が発行した慶応4年5月16日付けの彰義隊と官軍との攻防戦を伝えるものを発見したときの喜びが語られていると同時に、50年間にわたって集めた日本最大のコレクションである号外の山を前に少し途方にくれている皆川さんについても記されている。こういうことは、いわゆるビブリオグラフィーの記載事項からは伝わってこないことである。

こういうふうにして見聞した77ヵ所の図書館、コレクションについて紹介されている。われわれに関係の深いところでは、東京リンカーン・センター（新日貿ビル7階、館長望月政治氏）、丸善・本の図書館（丸善本社ビル7階、館長八木佐吉氏）があげられよう。紹介された図書館、コレクションが東京中心になってい

ることは、文化の東京集中のほか取材の便を考えるとやむをえないかもしれないが、東京都から53ヵ所が紹介されているのに、26府県から1ヵ所もあげられていないのは、どういうものだろうか納得のいかないひとも多からう。

以上で168ページ。この次に107ページにわたって「主要特殊コレクション」の部がある。あとがきには、これは「本書の欠を補う貴重な資料である」とある。この部の記述は、「全国特殊コレクション要覧 改訂版」（国立国会図書館参考書誌部、1977.1）とほとんど同じである。この本であげられたコレクションは171、本文の記述77を加えて248であるのに、「全国特殊コレクション要覧」には672ヵ所が記述されている。東北大学図書館では、狩野(享吉)、櫛田(民蔵)、(夏目)漱石、(土井)晩翠の4文庫がとりあげられているが、「要覧」によれば、これらの他に、長谷田(泰之)、石津(照璧)、石崎(政一郎)、ケーベル(Raphael von Koeber)、児島(喜久雄)、大類(伸)、ゼッケル(Emil Seckel)、シュタイン(Friedrich Stein)、梅原(末治)、和田(佐一郎)、ヴント(Wilhelm Wundt)、チーテルマン(Ernst Zitelmann)の諸文庫が記録されている。読者は東北大学図書館には上述の4文庫しかないと思うかもしれない。このとりあげ方と記述には全面的には賛成しかねる。どうも77ヵ所の記事だけでは一冊の本としては薄すぎるので、この部門を加えて厚くしたとも考えられるのである。

こういう欠点にもかかわらず、固有名詞索引と特殊主題索引とがつけられているし、77ヵ所については読んでいて楽しく、また啓発されるところも多い本である。

(M. I.)

海外ニュース

「アメリカの出版統計」

アメリカの1979年の書籍出版統計の最終結果が発表された。この統計は、ボウカー社の「ウィークリー・レコード」のデータに基くもので、政府刊行物や学位論文は除外されており、教科書やペーパーバックは完全にはカバーされていない。

1979年の書籍総出版点数は45,182点で、これは前年の41,218点と比較して9.6%の増加であった。

ハードカバー本の一冊当りの平均単価は23.96ドルで、前年より14%値上りしている。特殊な高額本の影響を排除するため80ドル以下のもののみ集計すれば、平均単価は19.63ドルで、8.9%の上昇である。1ドル以上50ドル未満のものの平均は18.02ドルで、前年の16.21ドルと比較して11.2%上昇したことになる。

ウィークリー・レコードに収録された本の80%は新刊書で、残りの約20%が重版、改訂版、復刻版などである。またハードカバーは全体の約73%を占めている。

とくに注目されるのは下記の点である。

●ハードカバーの小説の出版点数が約10%減少した。平均単価は約12ドルで、6.4%の上昇である。

●分野別の出版点数を見れば、工学(36%増)、医学(26%増)、ビジネスおよび科学(各10%増)などの著しい伸びが目立つ。

●分野の中で最も大きい比重を占めるのは社会学・経済学の分野で、全体の17%を占めているが、出版点数の伸びも19%増であった。

●翻訳書は前年に引き続いて落ち込み、1977年の水準に戻った。逆に輸入書は41%増という大幅な伸びを示した。

●大衆市場向ペーパーバックの価格は9.5%上昇、その他のペーパーバックは14%の値上りであった。

(Publishers Weekly, 9月26日号より)

——紀伊國屋書店提供——

来日外人名簿

9月初旬 Mr. A. Swetz, Director

Mr. Harry Huizenga

Swetz & Zeitlinger, Amsterdam

〃 Mr. Gunther Holtz

Mr. Drescher

Springer Verlag, Berlin

〃 Mr. J.C. Baltzer

J. C. Baltzer Sales Office for International
Scientific Publishers, Basel

9月中旬 Mr. Kurt Lingenbrink

G. Lingenbrink GmbH & Co., Hamburg

9月下旬 Mr. Fred Kobrak

Cassell & Company Ltd., London

〃 Mr. W.W. Hughes

ADIS Press, Sydney

〃 Mr. G. Edwards

Regional Manager, Collier-Macmillan, N.Y.

10月上旬 Mr. M. Brown

Regional Manager, J. Wiley, N.Y.

通関統計

外国貿易概況(大蔵省関税局編、日本関税協会発行)

1980年6月

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

(単位100万円 \$1,000)

昭和55年6月	¥ 2,819	1月以降累計	¥ 20,950
〃	\$ 12,730	〃	\$ 87,287
昭和55年7月	¥ 2,285	〃	¥ 23,235
〃	\$ 10,485	〃	\$ 97,772

(注) この統計は、CIF 価格で10万円以下の少額貨物は含まない。

新入会員のお知らせ

今回下記のかたが会員として入会されましたので、お手許の会員名簿にご記入願います。

賛助会員

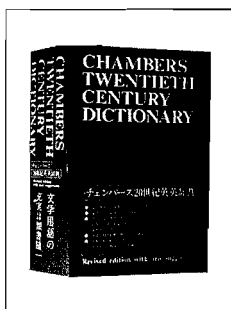
(株)リージェンツ出版社

取締役社長 小野照男

〒112 文京区後楽2-2-15 早川ビル

☎ 816-4373

CHAMBERS DICTIONARIES



CHAMBERS TWENTIETH CENTURY DICTIONARY

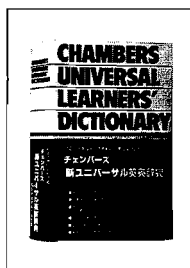
チェンバーズ 20世紀英英辞典

スタンダード版 ¥5,720
贈呈用版 ¥7,740

210×140mm
Xii+1,652ページ
見出し語 150,000語以上

■文学用語の充実は類書随一。シェークスピアなどの用いた用語など29,066語を収録。

80年代をリードする新しい英語学習辞典の決定版！



CHAMBERS UNIVERSAL LEARNERS' DICTIONARY

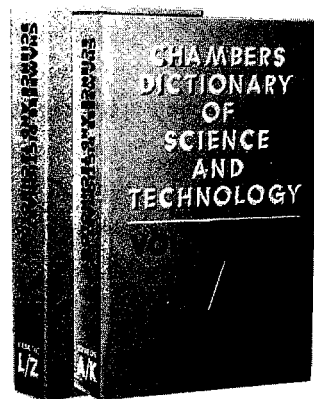
チェンバーズ 新ユニバーサル英英辞典

クローズ版 ¥4,300
ペーパー版 ¥2,900

216×132mm
928ページ

■見出し語40,000語 ■語法用例54,000

Chambers



○詳しい内容等の資料は小社書籍販売部までご請求ください。

<i>First Learners' Dictionary(Paper)</i>	¥1,080
<i>Second Learners' Dictionary(Paper)</i>	1,400
<i>Compact Dictionary(Cloth)</i>	2,120
<i>Everyday Dictionary, Revised ed.</i>	3,560
<i>Mini Dictionary(Paper)</i>	780
<i>Children's Illustrated Dictionary</i>	2,120
<i>Latin-English Dictionary(Paper)</i>	3,060
<i>Scots Dictionary(Cloth)</i>	5,000
<i>Atlas of World History(Paper)</i>	2,120
<i>Biographical Dictionary, 2 vols.</i>	4,320

チェンバーズ科学技術用語英英辞典

Chambers Dictionary of Science
and Technology

クローズ版 ¥12,600
2 vols. ペーパー版 ¥4,320

洋販(日本洋書販売配給株式会社) 160 東京都新宿区大久保3丁目14-9 TEL 03-208-0181

昭和55年11月 通巻第163号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル302号室 ☎ 271-6901
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329